

寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

団体名	NPO 法人緑と水の連絡会議
テーマ名	新型コロナウイルス感染症対応事業
事業名	多世代交流食堂を活用したコロナ禍での家庭支援事業
事業費(うち助成金額)	671,759 円(600,000 円)



■事業目的

新型コロナウイルスの影響で経済的にダメージを受けている家庭が増えている中、益々需要が高まっている多世代交流食堂みーる堂（青少年の居場所ゆきみーるにおいて、居場所を利用する若者たちと一緒に運営している子ども食堂。第3土曜日の17時～19時に開催。）であるが、心待ちにしている家庭により安心して利用してもらえるようにコロナ対策を強化し、更に食材や菓子を持ち帰ってもらい日々の暮らしの潤いとする。

■事業内容

- ①多世代交流食堂みーる堂におけるコロナ対策強化
 - ・非接触型体温計、非接触型手指消毒器、非接触型手指洗浄器の購入
 - ・マスク、手袋、ラップ、消毒液などの購入
 - ・有償スタッフの増員
- ②多世代交流食堂みーる堂の安定開催（原則毎月第3土曜日17:00～19:00）
 - ・使用食材の購入
 - ・保険への加入
 - ・有償スタッフの増員
- ③家庭食材支援
 - ・持ち帰り食材の購入、配布
 - ・子ども向け菓子の購入、配布

■事業成果と今後の展望

- ①非接触型体温計、非接触型手指消毒器、非接触型手指洗浄器、マスク、手袋等を購入することにより、参加者に経済的な負担をかけずにコロナ対策教科できた。
- ②有償スタッフを増員させることにより、参加者の流れの整理や机のレイアウトの変更、持ち帰り食材の受け渡しなどをスムーズに行うことができ、以前より参加者が増加したにも関わらず、滞在時間を短縮することで密になるリスクを軽減することができた。
 参加者数・10月：85名 11月：78名 12月：92名 1月：85名 2月：91名 3月：81名
 （助成金活用前・7月：47名 8月：70名 9月：43名）
- ③持ち帰り食材や子ども向け菓子の購入、配布により家計支援にただだけでなく、時間帯によって持ち帰り数が増減するルールを作ることで、今まで参加者の少なかった17時～18時の利用が増え、混雑を緩和することができた。また、新規参加者が増え青少年の居場所ゆきみーるの存在がより周知された。

今後の展望：家庭食材支援を活用しようと民生児童委員やスクールソーシャルワーカーが関わりのある家庭に同行して参加するケースが増え、新たな連携へとつながった。ソーシャルワークの場としても一層活用していきたい。